

専門科目
(運動機能科学コース開講)

【科目名】 <div>摂食・嚥下障害学総論</div>		【担当教員】 <div>井上 誠、辻村 恭憲、真柄 仁</div>	
【授業区分】 <div>専門科目</div>	【授業コード】 <div>Dbmhs101</div>	(メールアドレス) <small>井上: inoue@dent.niigata-u.ac.jp 辻村: tsujimura@dent.niigata-u.ac.jp 真柄: jin-m@dent.niigata-u.ac.jp</small>	
【開講時期】 <div>前期</div>	【選択必修】 <div>必修</div>		
【単位数】 <div>2</div>	【コマ数】 <div>15</div>	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後に対応	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本講義は、疾患にもとづく検査と診断から、リハビリテーションにいたるまでの臨床科目というだけでなく、生活弱者を支える栄養支援や環境設定などの幅広い知識を必要とする。十分な事前の学習を必要とするが、不明な点は講義中、講義後に積極的に質問をするなどの対応をしてもらいたい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻・無断欠席のないようにすること。授業中の質問や疑問などを積極的に行い、授業への主体的な参加を心がけること。生成AIの使用に関しては、利用禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。			
【講義概要】 (目的) 正常な摂食嚥下機能及びその神経性制御機構を学んだ後、神経機序からみた嚥下障害の理解へとつなげる。種々の疾患を原因とする摂食嚥下障害の病因、複雑な構造と機能障害について病態生理学的な理解を深める。摂食嚥下障害の検査及びリハビリテーションについての知識を深め、臨床応用へとつなげるだけでなく、一生涯健康に食べることの意義について考えていく。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 主として配付資料及び参考図書を使用して講義を行う。毎回の確認テストを行い、回収後に解答の解説を行う。			
【一般教育目標 (GIO)】 摂食嚥下障害の病態を把握するために、摂食嚥下機能に関する正常像と障害像について理解を深める。 摂食嚥下障害の臨床アプローチを把握するために必要な検査、診断、リハビリテーションの流れを理解する。 【行動目標 (SB0)】 摂食嚥下機能の正常像と病態像を説明する。 摂食嚥下機能障害者に対する臨床的アプローチの手段を説明できる。 摂食嚥下障害の病態像や疾患を取り巻く社会状況に関する新たな知見について説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】 毎回資料を配付する。			
【参考書】 摂食嚥下リハビリテーション第4版（才藤栄一・植田耕一郎監修） 医歯薬出版			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、出席（30%）ならびにレポート（70%）で評価を行う。本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70				30	100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	総論	講義（井上）	準備：これまで学修してきた摂食嚥下障害に関する内容の整理.	180分
2	摂食嚥下機能に関わる神経解剖	講義（井上）	準備：摂食嚥下，解剖，生理等の知識の整理. 事後：授業内容の整理（摂食嚥下機能に関わる末梢神経解剖）.	準備学習 90分 事後学習 90分
3	摂食嚥下機能を支える中枢メカニズム	講義（井上）	準備：摂食嚥下，解剖，生理等の知識の整理. 事後：授業内容の整理（摂食嚥下機能に関わる中枢神経解剖）.	準備学習 90分 事後学習 90分
4	摂食嚥下障害の診断に必要な検査とその方法	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害の検査と診断）の知識の整理. 事後：授業内容の整理（原因疾患）.	準備学習 90分 事後学習 90分
5	障害の考え方と摂食嚥下リハビリテーション	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（リハビリテーション論）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分
6	脳血管疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（脳血管疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分
7	呼吸機能と呼吸器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（呼吸器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分
8	小児（発達障害，先天異常）の摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（小児の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分

9	代謝系疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（代謝性疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
10	動物実験の最近の知見	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害のメカニズムに関連した動物実験）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
11	消化器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（消化器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
12	頭頸部腫瘍に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（頭頸部腫瘍術後の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
13	神経疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（神経疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
14	ヒト研究の最近の知見	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害のメカニズムに関連したヒト研究）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
15	高齢者の摂食嚥下障害に対する考え方	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域の知識の整理ならびに臨床への展開に向けた課題を考える。 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分

【科目名】		摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）		【担当教員】	倉智 雅子、松村 博雄、木戸 寿明
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbms106	(メールアドレス) 倉智：mkurachi@iuhw.ac.jp (オフィスアワー) 倉智：メールにて随時	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 頭頸部領域の解剖について、学部レベルの基礎知識を有していること。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 学修に取り組む姿勢も評価の対象となるため、積極的な質問や意見交換が望まれる。 生成系AIの利用は可能。授業内、予復習、成果物作成において、自由に利用できる。ただし、利用した場合はその旨記載すること。					
【講義概要】 (目的) 「学位授与の方針と当該授業科目の関連」：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 主として、配付資料とトピックに合わせた動画を使用して講義を行います。 演習については授業の中で正しい解釈について解説します。 「試験・レポートのフィードバック方法」 倉智：レポートについては、コメントを付して返却します。 松村：理解度確認テストにコメントを付して返却。 木戸：ディスカッション・ディベートの中で、現状の理解度の把握と必要な助言を行います。					
【一般教育目標 (GIO)】 摂食嚥下障害の臨床の土台となる知識と技能を習得するために、ヒトの鰓弓（咽頭弓）性器官の変遷、転用、痕跡など形態形成の特徴をとらえて、摂食・嚥下に関する形態と機能を理解する。また、口腔ケアに必要な知識と技術を修得する。					
【行動目標 (SB0)】 口腔の診察：口腔内の観察の仕方を説明でき、歯科領域特有の専門用語を用いた表現ができる。さらに一般的な歯口清掃の仕方のみならず、高齢者障害のための口腔ケア実習を通し、義歯の取り扱い、口腔内清拭、舌の清掃、口腔乾燥のケア等について実施できる・演習を通し、顎顔面領域のレントゲン画像の見方や、診療報酬・介護報酬のしくみが概説でき、医療事故等の事例分析ができる。・嚥下に関与する感覚系・運動系の解剖生理および嚥下に関与する延髄や上位中枢の役割がわかる・嚥下障害症例のビデオ画像解析ができる（演習）					
【教科書・リザーブドブック】 倉智：プリントを配付予定 松村：プリントを配付予定 木戸：プリントを配付予定					
【参考書】 倉智：才藤栄一，植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版. 医歯薬出版, 2016. ￥7,600					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 3人の担当者の評価を倉智50％（うち、レポート40％、演習および学修に取り組む姿勢10％）、松村25％、木戸25％の割合で合わせて総合的に評価を行う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			70					70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	嚥下の神経機構	講義（倉智）	予習：これまでに学習した嚥下器官の解剖（特に神経支配）と健常嚥下の生理を復習しておく 復習：講義ノートおよび講義資料の整理と確認	180
2	嚥下反射の惹起機構：感覚受容器の特性	講義（倉智）	予習：これまでに学習した嚥下器官のうち、特に口腔と咽喉頭の解剖を復習しておく 復習：講義ノートおよび講義資料の整理と確認	180
3	嚥下の異常所見とその解釈	講義・演習（倉智）	予習：嚥下造影で観察できる健常嚥下の動態および異常所見の確認 復習：演習を通して気付いたことや疑問点をディスカッションで発言できるようまとめる。	180
4	嚥下障害症例の嚥下造影画像解析とディスカッション	講義・討議（倉智）	予習：討議参加への準備 復習：講義ノートおよび講義資料の整理と確認	180
5	鰓弓性(咽頭弓)器官 咀嚼、哺乳、嚥下、発声の発生学	講義（松村）	準備学習：初期発生について	180
6	脳神経Ⅴ、Ⅶ、Ⅸ、Ⅹ 脳神経と咀嚼、嚥下、発生のかかわり	講義（松村）	準備学習：脳神経の解剖学	180
7	全身状態の評価 バイタルサイン、摂食嚥下に関わる身体機能評価	講義（木戸）	準備学習：臨床検査学の復習	180
8	口腔の診察 口腔内観察法と歯科専門用語、口腔ケアの理論と実際	講義（木戸）	準備学習：臨床歯科医学の復習	180

【科目名】		高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）		【担当教員】		伊林 克彦	
【授業区分】		専門科目		【授業コード】		dBmhs109	
【開講時期】		前期		【選択必修】		必修	
【単位数】		1		【コマ数】		8	
【メールアドレス】 ibayashi@nur05.onmicrosoft.com							
【オフィスアワー】火曜日午後							
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目を受講するには基礎的な神経解剖学を修得していることが前提です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では大脳の器質的な損傷に伴う巣症状を理解していることが求められます。 生成AIの利用は不可とする。							
【講義概要】 (目的) 高次脳機能障害を幅広く理解する。 中枢神経系の理解を深める。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 授業やディスカッションにおいて積極的な参加を望む。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 試験や授業の後で個々にフィードバックする。							
【一般教育目標 (GIO)】 ・ 中枢神経系の発生、形態学ならびにヒトの脳の特徴（特殊化）を研究する。 ・ 高次脳機能について幅広く概観する。 【行動目標 (SB0)】 ・ 高次脳機能が日常生活にどのように関わっているかを学修する。							
【教科書・リザーブドブック】 資料を配付します。							
【参考書】 脳解剖学 萬年甫 原一之 南江堂 9,800円 高次脳機能障害 藤田郁代 医学書院 4,725円							
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート60%、口頭試問40%。							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		60					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		60					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高次脳機能障害とは 高次脳機能の基本概念	講義	中枢神経系に関する解剖学および神経学の書籍を読む。	220
2	聴覚認知とは 聴覚認知の障害	講義	聴覚と脳の関係について関連書を読んで予習する。	220
3	視覚認知とは 視覚認知の障害	講義	視覚と脳の関係について関連書を読んで予習する。	220
4	視空間認知とは 視空間認知の障害	講義	視空間知覚と脳について関連書を読んで予習する。	220
5 6	5 高次脳機能障害の臨床像 ①各症状の出現頻度 ②各症状と左右脳半球の関係	講義	脳血管障害、変性疾患、外傷、脳腫瘍などの疾患に対する文献や書籍を通して予習する。	220
7	触覚認知とは 触覚認知の障害	講義	触覚及び体性感覚と脳について関連書を読んで予習する。	220
8	行為機能とは 行為の障害	講義	行為・遂行機能と脳について関連書を読んで予習する。	220

【科目名】		高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）		【担当教員】	大平 芳則
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmhs110	(メールアドレス) y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 水曜12:40～13:30	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関及び地域保健・健康増進事業等で言語・高次脳機能障害者へのリハビリテーションに従事してきた経験から、脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。 本科目は言語聴覚士、公認心理師等を目指す者には重要な科目となります。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。ただし、それらは全て適切に使う必要がある。引用した場合には、文献を明記し、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。 演習を行ないながら進めますので、毎回必ずPCを持参してください。					
【講義概要】 (目的) ①脳機能と心のはたらき（脳と心）の関係 ②脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのか、を学ぶ。そして、 ③脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：専門領域に関する多様な課題を分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法) スライドを使った講義と演習を中心に進める。毎回スライド資料を配布する。 既に高次脳機能障害に関する基礎的な科目を履修していることが望ましい。脳の機能や高次脳機能障害の基本的なことを身につけていないと理解できない可能性がある。 可能な限り具体的な症例を通して实际的に学べるように、演習を行ないながら進めますので、毎回必ずPCを持参してください。					
【一般教育目標 (GIO)】 ①脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 ②高次脳機能障害の神経学的・生理学的作用機序を説明できる。 ③脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。					
【行動目標 (SB0)】 高次脳機能障害と脳機能との関連性が理解でき、適切に支援することができる。 コミュニケーション能力の機序を脳機能から理解でき、その機能障害が生活・社会活動全般に及ぼす影響も説明できる。 症例に即した神経心理学的検査を正しく実施でき、その結果を適切に評価できる。					
【教科書・リザーブドブック】 なし。 資料を配付します。					
【参考書】 田川皓一 池田学 神経心理学への誘い 高次脳機能障害の評価 西村書店 2020年 6800円＋税 石合純夫 高次脳機能障害学 医歯薬出版 2022年 4500円＋税 山鳥重 神経心理学入門 医学書院 1985年 6400円＋税					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価は課題レポート100%とする。 出席点は評価に含まない。 課題レポートについては、その解説をもってフィードバックとする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 大脳について重要事項の確認	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
2	高次脳機能障害について重要事項の確認	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
3	前頭葉の損傷例 1 症例紹介	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
4	前頭葉の損傷例 2 報告書の作成	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
5	頭頂葉の損傷例 1 症例紹介	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
6	頭頂葉の損傷例 2 報告書の作成	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
7	側頭葉の損傷例 1 症例紹介	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
8	側頭葉の損傷例 2 報告書の作成	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180

【科目名】高次脳機能障害評価学Ⅰ（コンピューター評価技法）		【担当教員】浅海 岩生
【授業区分】専門科目	【授業コード】bm112	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜 12:00-17:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・ この科目はオンデマンド配信授業です。 ・ 教材の配布はMicrosoft teamsでインターネット配信します。 ・ 特にプログラミングの知識は必要としません。 初心者用プログラム言語スクラッチとUnityを使用し学習していきます。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・ 課題は必ず期限内に出すようにしてください。(課題提出は指定した方法で行ってください。通常はTEAMS内の「課題」より提示と提出を行います。)		
【講義概要】 (目的) ・ 高次脳機能障害の検査は、主として簡単な器具あるいは検査チャートを使用するなどの方法がありますが、近年ではコンピューターを用いた方法も導入されています。 ・ この講座では入門者でも簡単に組みめるコンピューターによる高次機能の検査法について紹介し、実際に簡単な高次脳障害検査プログラムを作成することでコンピューターを利用した検査プログラムの原理と作成方法を理解していきます。		
(方法) ・ 授業の形態は、Teamsによるオンデマンド配信となります。 ・ 何度も繰り返し視聴して理解を深めてください。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・ 高次脳障害評価をコンピューターで検査することの意義を知る。 ・ コンピューター利用の高次脳障害評価の原理と作成方法を理解する。		
【行動目標 (SB0)】 ・ 高次脳障害評価の各種検査法について説明できる。 ・ 簡単なコンピューター利用の高次脳障害評価を作成できる		
【教科書・リザーブドブック】 ・ 特に購入の必要はありません。 ・ 必要に応じ資料を配布します。		
【参考書】 ・ 必要に応じ授業内で提示します。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・ 本学学則、授業科目の履修方法と試験評価規程およびその施行細則に従う。 ・ 成績評価は、小テスト40%、レポート50%、授業に取り組む姿勢10%(課題・その他)とする。 ・ 課題提出が 2/3以下である場合には、受験資格がありません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			40	50				10	100
評価指標	取り込む力・知識		40	30					70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション高次脳機能検査の流れとコンピュータ使用例 ・授業の進め方を説明する。 	講義・演習	・高次脳検査について調べておく。	180分
2	<ul style="list-style-type: none"> ・線分二等分検査プログラムの作成 ・プログラミング環境(Scratch)の整備 ・プログラム作成の基本を学ぶ。 	講義・演習	・プログラム作成の基本について復習する。	180分
3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・単純反応時間測定プログラムの作成 ・時間を測定する技法を学ぶ。 ・抹消テストの作成 	講義・演習	・時間を測定する技法について復習する。	180分
5-6	<ul style="list-style-type: none"> ・三次元空間における反応時間測定プログラムの作成(1) ・Unityのインストールと基本操作 	講義・演習	・3Dプログラムについて復習する。	180分
7-8	<ul style="list-style-type: none"> ・三次元空間における反応時間測定プログラムの作成(2) ・まとめ 	講義・演習	・全体の復習を行う。	180分

【科目名】		前頭葉機能・右半球障害		【担当教員】		道関 京子、伊林 克彦	
【授業区分】		専門科目		【授業コード】		dbmh113	
【開講時期】		前期		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		8	
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
履修に際しては、神経心理学を復習して受講いただきたい。							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
・知識だけでなく、臨床上の具体的・実践的な評価・訓練体系まで深めるため積極的・能動的に受講すること。							
・生成系 AI の利用は全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（課題発表・レポート等含む）作成において自由に利用して構わないが、使用した場合にその旨をレポート等に示すこと。							
【講義概要】							
(目的)							
・前頭葉・右半球損傷による言語・精神・行為障害の観察と評価を理解する。							
・この障害をもった脳つまり生きた人間の力動的脳活動の改善への臨床貢献を考える道筋を把握する。							
・前頭葉・右半球損傷の他領域損傷との関連性や違いを理解する。							
・当該授業科目と学授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。							
(方法)							
・評価も訓練も、観察的立場と現象学心理学的立場の両面から議論していく。可能な限り実践的な内容とする。							
・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックは、別に解説コメントの時間を設定する。							
【一般教育目標 (GIO)】							
・前頭葉・右半球の知識を深めるために、その構造と機能およびその損傷による様々な神経心理学的症状について、またその他の脳領域損傷との違いを理解する。							
・さらにその改善に向けた人間科学的アプローチの道筋を考える力をつける。							
【行動目標 (SBO)】							
・前頭葉障害で出現する2非流暢タイプ失語症を鑑別し、それらと他脳領域の障害と鑑別評価ができる。							
・前頭葉・右半球機能損傷による精神機能・行為を的確に評価できる。							
・これら障害に対する臨床訓練を科学的に立案できる。							
【教科書・リザーブドブック】							
資料やプリントを配布する。							
【参考書】							
Luria AR：神経心理学の基礎―脳の働き．鹿島晴雄訳，創造出版，2009年 ¥8,000（税別）							
波多野和夫他：言語聴覚士のための失語症学．医歯薬出版，2002年，¥5,500（税込）							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
・成績評価は、小テスト50％、課題またはレポート50％で行う。							
・成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			50		50				100
評価 指標	取り込む力・知識		25		25				50
	思考・推論・創造の力		25		25				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	右半球障害の臨床症状	講義（伊林）	右半球症状についての予習	180
2	左右の前頭葉で見られる各症状と責任病巣	講義（伊林）	右半球症状についてを復習	180
3	脳の機能と構造と神活動の基本 1 ・脳器官の働きの特質 ・高次脳機能の定義 ・脳機能・局在・症状	講義・討議 (道関)	・脳器官働きの特質・高次脳機能の定義について復習する ・機能・局在・症状について臨床上にあてはめ考える	180分
4	脳の機能と構造と精神活動の基本 2 ・脳の三つの基本的機能単位系 ・力動的全体論	講義・討議 (道関)	・脳の三つの基本的単位系を復習する ・基本単位系の相互作用をについて考える	180分
5	前頭葉と精神活動調節 ・精神活動 ・運動と行為 ・記憶と知的行為	課題検討 講義・討議 (道関)	・前頭葉の精神活動について復習する ・まとめて発表の準備をする	180分
6	前頭葉の運動領域と感覚運動領域の機構 ・運動の遠心機構と求心機構	課題検討 講義・討議 (道関)	・運動領域と感覚運動領域について復習する ・まとめて発表の準備をする	180分
7	前頭葉と視知覚、聴知覚機構 ・要素的視聴覚と認知機構	課題検討 講義・討議 (道関)	・前頭葉と視知覚、聴知覚について復習する ・要素的視聴覚と認知機構についてまとめて発表の準備をする	180分
8	前頭葉と同時性統合機構 ・具体的空間、準空間統合機構 ・言語記憶の過程	課題検討 講義・討議 (道関)	・前頭葉と同時性統合機構について復習する ・空間、準空間統合と言語記憶についてまとめる	180分

【科目名】		注意・記憶・行為・遂行機能障害		【担当教員】	内山 千鶴子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmh 114	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	c. uchiyama@nur. ac. jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 随時メールで質問・相談に応じます	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この授業の履修に際して、高次脳機能「注意・記憶・行為・遂行機能・その他」とその障害の基礎的知識を前提としますので、よく復習を行っておいて下さい。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
事前に資料を読み予習し、受講に際しては積極的な姿勢で意見表明や質問を行ってください。					
生成AIの活用は認めますが、どのように使用したかを明確にしてください。特に、レポートでは生成AIによる意見とご自分の意見を区別して示して下さい。					
【講義概要】					
(目的)					
・高次脳機能の各障害について、定義、症状の分析と把握、評価法、リハビリテーションの基本的な知識を理解できるようにします。					
・その基本知識を踏まえて文献レベルで症例のリハビリテーションの方法を考察できる能力を身につけます。					
・当該科目と学位授与方針等との関連性：高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を統合する力を培います。					
(方法)					
・高次脳機能障害の基本的知識を学習し、そのリハビリテーションを文献で調べてまとめ発表します。					
・課題やレポート等に対するフィードバックは、講義中に説明します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・高次脳機能障害の定義、症状、評価、リハビリテーションの方法を理解できる。					
・学習した知識を活かして文献レベルの症例からリハビリテーションの実際を考察できる。					
【行動目標 (SB0)】					
・高次脳機能の高次脳機能障害の定義、症状、評価、リハビリテーションの方法を説明できる					
・高機能障害がある症例のリハビリテーションに関して考察し、各自の意見を述べることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
・資料を配布します					
・佐藤睦子：高次脳機能障害： 注意障害・記憶障害・遂行機能障害を中心に、ディサースリア臨床研究、Vol13, No1 2023					
【参考書】					
・加藤元一郎：記憶障害の病態、最新医学, 47-55 - pieronline. jp 2003					
・豊倉穰：注意障害の臨床、高次脳機能研究、vol28、No3、2008					
・福井俊哉：遂行（実行）機能をめぐって、認知神経科学、vol12, No3-4 , 156-164, 2010					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
授業評価基準は本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従います。					
課題をまとめ授業中に発表します。発表後のコメントや討議内容を考察しレポートにまとめます。そのレポート（50％）と学期末の試験（50％）で成績を評価します。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50			50				100
評価 指標	取り込む力・知識	25							25
	思考・推論・創造の力	25							25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				25				25
	学修に取り組む姿勢				25				25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・講義概要と実施方法の説明 ・高次脳機能とその障害に関する基本的知識 ・注意障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法	講義	・資料を読んでおく。 ・高次脳機能とその障害の定義を説明できる。 ・注意障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法を説明できる。	220分
2	・注意障害のリハビリテーション	講義	・注意障害のリハビリテーションに関する文献を選択し、まとめる。	220分
3	・注意障害のリハビリテーションに関する文献を発表する。発表に対する各自の意見で討議する。 ・記憶障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法	講義・討議	・注意障害のリハビリテーションに関する発表と討議を基にレポートでまとめる。 ・記憶障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法を説明できる。	220分
4	・記憶障害のリハビリテーション	講義	・記憶障害のリハビリテーションに関する文献を選択し、まとめる。	220分
5	・記憶障害のリハビリテーションに関する文献を発表する。発表に対する各自の意見で討議する。 ・行為障害・遂行機能障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法	講義・討議	・記憶障害のリハビリテーションに関する発表と討議を基にレポートでまとめる。 ・行為障害・遂行機能障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法が説明できる	220分
6	・行為障害・遂行機能障害のリハビリテーション	講義	・行為障害・遂行機能障害のリハビリテーションに関する文献を選択し、まとめる。	220分
7	・行為障害・遂行機能障害のリハビリテーションに関する文献を発表する。	講義・討議	・行為障害・遂行機能障害のリハビリテーションに関する発表と討議を基にレポートでまとめる。	220分
8	・注意・記憶・行為・遂行機能障害のリハビリテーションに関する意見を発表する。 ・試験	講義・討議	高次脳機能障害のリハビリテーションを説明できる。	220分

【科目名】失語・失読・失書		【担当教員】道関 京子
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmhs 117	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	kei.doseki@gmail.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) メール
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目の履修に際しては、失語症のタイプや言語症状についての基礎知識を前提にしているため、それらについて復習しておくこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・日本語学・心理学の知識も深めながら講義・討議するため、積極的・能動的に受講すること。 ・生成系 AI の利用を制限はしないが、授業内、予復習、成果物（まとめ・課題発表）において使用した場合には、その旨を明示し、かならず自身の意見と分けて提示すること。		
【講義概要】 (目的) ・高次脳機能障害の代表として失語症・失読症・失書症を構造的に理解する。 ・発話文の成り立ちと構造を科学的に理解し、リハビリテーションに活用する力を身につける。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) ・失語の問題を文法論研究の観点から展開する。 ・講義ごとに失語リハビリテーションの臨床研究への考察も探求していく。 ・課題やレポート等に対するフィードバックの方法は、質問や意見およびレポート課題に対して解説し、時間外にも延長し十分時間をとる。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・失語症を構造的に把握するため、文法（統語）と語（命名）の質的研究力を培う。 ・言語科学的考察からの失語症リハビリテーションを理解する。 【行動目標 (SB0)】 ・失語症の各症候群の中心問題を鑑別できる。 ・失語症の話しことばの文法構造の問題について説明できる。 ・健忘失語の呼称や語想起障害の構造面を解説できる。 ・失語症のリハビリテーション企画の基礎を習得できる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・渡辺実：国語文法論．笠間書院，1997．¥1,760（税込）． ・毎回、資料を配布する。		
【参考書】 ・道関京子：新版失語症のリハビリテーション全体構造法、基礎・応用編，医歯薬出版，2016．¥4,180・¥4,400（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価は、毎回のまとめ・課題発表50％、レポート50％の割合で評価する。 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価 指標	取り込む力・知識			25	25				50
	思考・推論・創造の力			25	25				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	<ul style="list-style-type: none"> 失語症研究の課題と問題点 文法（統語）論の対象 発話（話しことば）を対象とする 基本用語の説明 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 予習：失語症の整理を行う 文法基本用語の内容を復習する 	180分
2	<ul style="list-style-type: none"> 発話文の文法とは 語の文中における機能の研究 各文法研究（語用論を含む） 失語評価やリハビリへ文法論の必要性 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 失語症理解における文法論の必要性を復習する 文法論の評価、リハビリへの要点を発表できるようまとめる。 	180分
3	<ul style="list-style-type: none"> 統叙機能の理解 失語の流暢性判定における話しことばの単位 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 統叙の機能について復習する 流暢性判断を具体的にまとめて発表の準備をする 	180分
4	<ul style="list-style-type: none"> 陳述（モダリティ）機能の理解 陳述障害による失文法（超皮質性運動失語） 超皮質性運動失語のリハビリテーション 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 陳述機能について復習する 超皮質性運動失語の発話特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
5	<ul style="list-style-type: none"> 叙述（日本語格関係）機能の理解 叙述障害による失文法（Broca失語） Broca失語のリハビリテーション 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 叙述機能について復習する。 Broca失語の発話特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
6	<ul style="list-style-type: none"> 連体の機能の理解 格助詞から構成される準空間障害による理解障害（健忘失語，意味性失語，意味性認知症） 健忘失語のリハビリテーション 	課題検討 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 連体機能について復習する 健忘失語の理解障害の特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
7	<ul style="list-style-type: none"> 発話体系から失語の問題とリハビリを探究 1 ー全失語、Broca失語、超皮質性運動失語、伝導失語ー 	課題検討 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 各タイプの失語の発話特徴を復習する 全失語と伝導失語の発話特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
8	<ul style="list-style-type: none"> 発話体系から失語の問題とリハビリを探究 2 ーWernicke失語、超皮質性感覚失語、健忘失語、皮質下性の失語様症状群ー 	課題検討 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 各タイプの失語の発話特徴を復習する Wernicke失語、超皮質性感覚失語皮質下性失語様群をまとめる 	220分

【科目名】		認知科学・認知機能障害		【担当教員】		伊林 克彦	
【授業区分】		専門科目		【授業コード】		dBmh205	
【開講時期】		前期		【選択必修】		必修	
【単位数】		1		【コマ数】		8	
【メールアドレス】 ibayashi@nur05.onmicrosoft.com							
【オフィスアワー】火曜日午後							
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 学部で履修した神経学や神経解剖学を予習しておくことが望ましい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) その日学んだ事柄について頭の中で整理できるまで十分復習する。 生成AIの利用は不可とする。							
【講義概要】 (目的) 記憶障害や行為・遂行機能障害、失語症等を含む高次脳機能障害に罹患し、日常生活及び社会生活に支障をきたす認知症について包括的に学ぶ。また、認知症の病態を検索するためのWAIS-R, Wisconsin Card Sorting Test, 及びCDR等種々の神経心理学検査法を履修する。認知症患者の行動を分析し、脳血管性認知症と変性疾患による認知症との鑑別についても学ぶ。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) さらに各種の検査法を用いて認知症の症状を抽出し、それらの症状についての対応を学ぶ。そのうえで認知症の症状を段階的にとらえ、家庭内や地域におけるリハビリテーションの可能性について各ステージ毎に模索する。加えて認知症患者の治療法についても種々の文献検索等を通して実践的に学ぶ。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 質問などに対し、メール又は口頭で随時対応を行う。							
【一般教育目標 (GIO)】 ・認知症患者の病態について、疾患別・原因別に分けてそれぞれの障害像を把握する。 【行動目標 (SB0)】 ・認知症患者に役立つトレーニング機器の研究及び開発を心がける。							
【教科書・リザーブドブック】 プリント配付、パワーポイントによる講義							
【参考書】 「痴呆の臨床」目黒謙一著 2004年（医学書院）2800円							
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 試験80％、授業・課題への取り組み20％の割合で総合的に評価を行う。 1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は他に課題を課す。							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	80						20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	認知症とは。 記憶障害 認知症の定義と評価法	講義	WAIS・MMSEなどの知能および認知検査の復習	220
2	血管性認知症と変性疾患による認知症。 見当識障害と視空間機能の障害 血管性認知症および変性疾患で生ずる認知症の成立機序を学ぶ	講義	脳血管障害や変性疾患の類型と特質を知る。	220
3	行為障害 認知症の評価（実践Ⅰ） 行為障害の病態を知る。 各種認知機能の検査法を実践する。	講義・実技	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
4	認知症の評価（実践Ⅱ） ディスカッション 各種認知機能の検査法を実践する。 3までに学んだ事柄につき検討する。	講義・実技・討議	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
5	認知症の評価（実践Ⅲ） 各種認知機能の検査法を実践する。	講義・実技	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
6	認知症の治療・訓練（Ⅰ） 認知症の治療・訓練を実践する。	講義・実技	認知症の治療・訓練の復習	220
7	認知症の治療・訓練（Ⅱ） 認知症の治療・訓練を実践する。	講義・実技	認知症の治療・訓練の復習	220
8	まとめ	講義	復習	220

【科目名】運動機能科学総論		【担当教員】高橋 洋
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbMhs118	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	hiroshit@nur.ac.jp
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 来校時に随時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 運動機能科学コースの学生は必修科目 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、予習復習レポート作成において自由に利用してください。使用した場合その旨をレポートに記載してください。		
【講義概要】 (目的) 理学療法関連分野の運動器等の関する様々な考え方アプローチ方法を発見分析し、自ら考える能力を培う。 (方法) 配布資料を使用し、スライドによる講義、実技のデモンストレーションを行います。レポートにコメントを付して返却します。		
【一般教育目標 (GIO)】 理学療法及び関連分野の知識・とらえ方・アプローチの方法等を知り仕事・学業のヒントとする。 【行動目標 (SB0)】 研究分野との関連性を考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 プリントを配布する。		
【参考書】 配布資料に書かれている図書の欄を参照してください。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価はレポート100%で行う。成績評価基準は、新潟リハビリテーション大学学則・授業科目の履修方法・試験評価規定及びその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 「姿勢コントロール」(Jane Johnson著 武田功弓岡光徳監訳 医歯薬出版)	講義	解剖、運動学の予習	180分
2	「Individual Muscle Stretching ストレッチング 第2版」 鈴木重行編 三輪書店	講義	1 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分
3	「マッスルインバランスの理学療法」 荒木茂 運動と医学の出版社	講義	2 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分
4	「運動のつながりから導く肩の理学療法」 千葉真一編 文光堂	講義	3 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分
5	「体幹と骨盤の評価と運動療法」 鈴木俊明監修	講義	4 コマの講義内容の復習 運動学の予習	180分
6	「体幹と骨盤の評価と運動療法」 鈴木俊明監修	講義	5 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分
7	「コアセラピーの理論と実践」 平沼憲治 岩崎由純 監修 講談社	講義	6 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分
8	「コアセラピーの理論と実践」 平沼憲治 岩崎由純 監修 講談社	講義	7 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分

【科目名】		地域・老年期リハビリテーション論		【担当教員】		小林 量作	
【授業区分】		専門科目		【授業コード】		dbmh 119	
【開講時期】		後期		【選択必修】		選択	
【単位数】		2		【コマ数】		15	
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】							
1. 講義課題について：各自からレポートを提出してもらい、そのレポートは教員のコメントも加えて履修学生で共有する。							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
1. 欠席は事前に教員へ連絡する。予習では最低1つの質問を準備しておく。							
2. 対面授業では最低1回の発言をする。							
【講義概要】							
(目的)							
1. 老年期（高齢者）に伴う様々な医学的問題、社会的問題、現在のトピックスについて理解する。							
2. 地域リハビリテーション（以下、リハ）、地域理学療法の通所、訪問、介護予防について理解する。							
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】							
専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培い、問題解決できる能力を身に付けることで社会に貢献する。							
(方法)							
1. オンデマンド授業視聴後に対面授業と組み合わせで実施する。							
2. オンデマンド視聴後は、指定のFormsに、必ず質問（学生自身で調べて後に理解できない点）を入れて返信をする。							
3. 対面授業では、学生自身の研究テーマに関連した視点から質問して、積極的に討論に参加する。							
【一般教育目標 (GIO)】							
1. 老年期では、超高齢社会の現状・課題、医学的トピックスであるのロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイルなどについて概論を修得する。							
2. 地域リハの訪問、通所、ヘルスプロモーション、地域包括ケアシステム、介護予防の概論を修得する。							
【行動目標 (SBO)】							
1. 超高齢社会の現状と課題について説明できる。							
2. 老年症候群、ロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイル、転倒・骨折、筋力増強など最近のトピックスについて説明できる。							
3. 地域リハの考え方、実際について説明できる。							
【教科書・リザーブドブック】							
指定なし。 授業テーマに応じて資料を提供する。							
【参考書】							
1. 牧迫飛雄馬、他、編、『高齢者理学療法』2017. 東京. 医歯薬出版.							
2. 金谷さとみ、他、編、『地域理学療法』（第5版）2022. 東京. 医学書院.							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。							
2. 成績評価は、レポート・出欠・テストにより総合的に評価する。							
3. 試験、レポートで評価を行う。							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			40	60					100
評価指標	取り込む力・知識		20	30					50
	思考・推論・創造の力		20	30					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 超高齢社会の課題 ・授業の進め方、履修学生の紹介など ・社会的問題、医学的問題①	講義:小林	予習	180分
2	高齢者の医学的トピックス ・高齢者の医学的問題② ・老年症候群	講義:小林	予習（前回講義の理解） 小テスト	180分
3	高齢者の医学的トピックス2 ・ロコモティブ症候群	講義:小林	予習（前回講義の理解）	180分
4	高齢者の医学的トピックス3 ・サルコペニア	講義:小林	予習（前回講義の理解） 小テスト	180分
5	高齢者の医学的トピックス4 ・フレイル	講義:小林	予習（前回講義の理解）	180分
6	高齢者の医学的トピックス5 ・転倒・骨折	講義:小林	予習（前回講義の理解） 小テスト	180分
7	高齢者の医学的トピックス6 ・認知症 ・レポート課題について	講義:小林	予習（前回講義の理解）	180分
8	地域リハビリテーションとは ・地域リハの定義・範囲、CBR、地域包括ケアシステム	講義:小林	予習（前回講義の理解） 小テスト	180分

9	通所理学療法 ・通所理学療法の実際、事例検討など	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分
10	訪問理学療法 ・訪問理学療法の実際、事例検討など	講義:小林	予習 (前回講義の理解) 小テスト	180分
11	ヘルスプロモーション ・介護予防 ・アプローチ方法	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分
12	地域リハとリスク管理 第1回 ・リスク管理とは、高齢者のリスク	講義:小林	予習 (前回講義の理解) 小テスト	180分
13	地域リハとリスク管理 第2回 ・在宅でのリスク管理	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分
14	地域リハと予防 ・予防とは、地域「通いの場」など	講義:小林	予習 (前回講義の理解) 小テスト	180分
15	授業全体のまとめ ・これまでの授業での質問・討論	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合								100	100
評価 指標	取り込む力・知識							20	20
	思考・推論・創造の力							20	20
	コラボレーションとリーダーシップ							20	20
	発表力							20	20
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	運動器疾患・スポーツ外傷・障害の理学療法に対する基本的な考え方	講義		180
2	運動器疾患・スポーツ外傷・障害の理学療法	講義		180
3	運動器疾患・スポーツ外傷・障害の理学療法	講義		180
4	運動器疾患・スポーツ外傷・障害の理学療法	講義		180
5	運動器疾患・スポーツ外傷・障害の理学療法	講義		180
6	理学療法における動作解析	講義		180
7	理学療法における動作解析	講義		180
8	まとめ	講義		180

【科目名】生活機能障害作業療法学		【担当教員】知名 規人	
【授業区分】専門科目	【授業コード】bmh121	(メールアドレス) china@nur05.onmicrosoft.com	
【開講時期】後期	【選択必修】選択		
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 火曜日13:30-15:00	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 医療及び介護保健領域機関で身体機能障害及び日常生活活動障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、生活機能障害について講じていきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 本科目は、ディスカッションや発表を含んだ科目です。 成系AIの利用は、以下の場合において許可します。ただし、使用した場合には出展元（情報元）を明記してください。課題については、あくまで自身の思考や独創性などを養う目的で設定しておりますので、その点を十分に考慮し、参考程度に利用することを推奨します。 利用可：レポートの草稿作成、プレゼン資料の原案作成、など			
【講義概要】 (目的) 生活機能とは何か、生活機能障害とは何かについて理解し、生活機能障害を持つ者への支援の仕方について学ぶ。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う」 (方法) 本科目は、主として配布資料を使用して講義を行います。 その年の履修者数により授業の進め方を決めますが、ディスカッションや発表を基本とした双方向型授業としております。 なお、対面講義を基本として実施しますが、状況に応じてWeb(Teams)にて行う場合もあります。			
【一般教育目標 (GIO)】 ・ 人が「生きること」を包括的・総合的にとらえる見方・考え方の「共通言語」を身につける。 ・ 対象者にとって「意味のある生活」を再構築できる支援のあり方を理解する。 【行動目標 (SBO)】 ・ 対象者にとって意味のある生活を適切に評価できる。 ・ 意味のある生活を再構築するための支援のあり方を検討することができる。 ・ 事例を通して、生活行為向上マネジメントの考え方を理解する。			
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じて資料を配布します。			
【参考書】 必要に応じて資料を配布します。			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・ 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 ・ レポート：80点分（コメントを付して返却します） ・ 発表：20点分（発表時にコメントをします）			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80	20				100
評価 指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢				10				10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生活機能の理解 生活機能とは ICFと背景と特徴	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考える。	90分 90分
2-3	「生活障害」における実践例 ・事例をICFにまとめる	講義、演習（課 題）	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考える。	90分 90分
4	意味のある作業や生活行為について 生活行為向上マネジメント(MTDLP)解説	講義、演習（課 題）	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考える。	90分 90分
5-6	「生活障害」における実践例 ・事例をMTDLPにまとめる	講義、演習（課 題）	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考える。	90分 90分
7-8	「生活障害」における実践例 ・事例をMTDLPにまとめる	講義、演習（課 題）	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考える。	90分 90分

【科目名】		生活環境科学（住環境・ADL）		【担当教員】	木村 和樹
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dmh122	(メールアドレス) k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 月曜日12時40分～13時30分	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 模擬高齢者体験は校内で行うため、教員の指導に従って行動すること。退院支援や在宅でのリハビリテーションを実施してきた経験から、高齢者などの模擬体験を通じて、医療職として必要な知識を講じる。 そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義中は私語を慎み、学ぶ姿勢をもって望むこと。 レポート課題においては生成AIの活用をせずに、模擬体験を元に作成を行うこと。					
【講義概要】 (目的) 在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その方法や種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学修する。また、住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学修することを目的とする。 ※当該科目学位授与方針等との関連性；A-2, P-2					
(方法) 高齢者は日常生活で環境的なバリアを感じることもあるため、実際に福祉用具・車いすを用いながら疑似体験を行う。 学生の理解度確認等のために、クリッカー等を使用する。 レポートに関しては、作成後に添削を行い随時、フィードバックを行う。					
【一般教育目標 (GIO)】 理学療法士は、対象とする人の身体的および精神的機能の維持向上を図るだけではなく、各人がおかれている生活環境の中で、より豊かに自立した生活が送れるように支援することが求められる。そのために模擬患者を経験して生活環境でのバリアなどを理解することを目標とする。					
【行動目標 (SB0)】 ①生活環境の概要について説明できる。 ②住宅改修や福祉用具を活用するために必要な法的制度について説明できる。 ③模擬高齢者などの体験をして、環境条件の影響を理解することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
【参考書】 鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017 伊藤利之・江藤文夫（編）：新版日常生活活動（ADL），評価と支援の実際，医歯薬出版，2010 野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論，第2版，三輪書店，2014					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。 レポートにより総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50			50		100
評価 指標	取り込む力・知識			20			20		40
	思考・推論・創造の力			20			20		40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10			10		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 生活環境学の概念	講義	生活環境学の概念を復習する。	180分
2	日常生活を支援する機器 (自助具、歩行補助具、車いす)	講義	演習に向けて日常生活を支援する機器の使い方を理解する。	180分
3. 4	車いす体験	演習	車いすの乗車者と介助者を体験して、車いすの操作方法を学ぶ。 生活環境で高齢者に障害となる場面を理解する。	180分
5. 6	模擬片麻痺体験	演習	車いすの乗車者と介助者を体験して、車いすの操作方法を学ぶ。 生活環境で高齢者に障害となる場面を理解する。	180分
7. 8	模擬体験のまとめ	講義	レポートを作成できるように体験の内容をまとめる。必要に応じて添削を行い再提出を行う。	180分

【科目名】物理療法学特論		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】専門科目	【授業コード】m123	(メールアドレス) hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】後期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー)9・10時限 メールで対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この授業はWEB授業対応授業です(Office365の設定が必要です)。 【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 ・必要に応じ受講者全員または個人にコメントする。 ・課題レポートの解答例を授業内で説明します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。 ・課題はMicrosoft Teamsを使用して提出してください。 ・必ず事前学修を実施してください。		
【講義概要】 (目的) この講座では、物理療法の各種の治療手技を概説すると共に最近の物理療法の進歩についても解説していく。授業は講師による講義の後、受講学生に与えられた課題の発表・討論(インターネットで受講ではレポート提出)という形で進めていく。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う (方法) この科目は講義が中心となります。 最後の2コマは学生の課題発表となります。課題の内容は講義の中で説明します。		
【一般教育目標(GIO)】 ・物理療法の各種の治療技法を知る。 ・物理療法の最近の進歩について知る。 【行動目標(SB0)】 ・物理療法の各種の治療手技について説明できる。 ・物理療法の最近の進歩について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・Michelle H. Cameron編、渡部一郎 監訳、普及版EBM物理療法 原著第2版、医歯薬出版株式会社、2006年、¥8,600+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート50%、発表30%、授業に取り組む姿勢20%(宿題、ノート整理状況など)とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	30			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			50	30			20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション (Temaの使用法を含む) ・温熱療法・寒冷療法の最近の進歩	・授業の進め方を説明する。 ・講義	・Teamsの利用法を確認しておく。 ・課題を作成と提出	120分 60分
2	・高周波療法・磁気刺激療法の最近の進歩	・講義	・高周波療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
3	・光線療法の最近の進歩	・講義	・光線療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
4	・超音波療法の最近の進歩	・講義	・超音波療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
5	・通電療法・バイオフィードバック療法の最近の進歩	・講義	・通電療法・バイオフィードバック療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
6	・力学的エネルギーを用いた物理療法 ・CPM療法の最近の進歩	・講義	・CPMとは何か調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
7	・水治療法を用いた物理療法	・発表	・発表は自分が興味のある療法についてまとめる。 ・ノート整理	各120分 各60分
8	・学生課題発表 課題をPowerPointで作成し提出することで代替する。			

【科目名】		精神・認知機能障害作業療法学		【担当教員】	長谷川 裕
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	bmh124	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月－金 13時～13時20分	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
精神・認知機能障害、精神疾患についての知識を有すること。 精神障害リハビリテーションに興味があること。 「ひと」に興味を持ち、「ひと」を奥深い存在と思えること。 「ひと」と環境の相互作用に興味があること。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・講義形式で行いますがときにディスカッションや演習を交えます。 ・生成AI 使用ルール：提出課題での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。それらを課題作成に使用した場合は、引用、参考文献として明記してください。 ・障害への配慮が必要な学生は事前に教員へ相談することを推奨します。					
【講義概要】					
(目的)					
精神・認知機能障害に対する治療構造、場についての思いを巡らし、理解を深め、臨床において対象者の状態、目的に適った治療構造、場とは何かを考え創出できるようになること。人が場との相互作用で何を感じ体験するかについて考えられるようになること。 当該科目と学位授与方針等との方針との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」					
(方法)					
その年の履修者数、履修者の精神領域の知識によって、日程や授業の進め方を決めます。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 講義の中で個別に対応する。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・治療構造、場についての見方、考え方を身に付ける。 ・治療構造、場が治療としてどのように機能するかを理解できる。					
【行動目標 (SB0)】					
・治療構造を評価することができる。 ・対象者の状態、目的と治療構造とを結びつけ適切な支援の在り方を検討することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特になし					
【参考書】					
人と集団・場 新版，山根寛，三輪書店，2018					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 成績評価は下表による。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			50	50					100
評価 指標	取り込む力・知識		10	20					30
	思考・推論・創造の力		10	30					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		30						30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	イントロダクション、精神機能とは。	ディスカッション、講義、演習	予習（精神機能について自習する）	180分
2	精神疾患・障害・統合失調症について①	講義、ディスカッション	予習（精神疾患・障害・統合失調症について自習する）	180分
3	精神疾患・障害・統合失調症について②	講義、ディスカッション	予習（精神疾患・障害・統合失調症について自習する）	180分
4	気分障害について	講義、ディスカッション	予習（気分障害について自習する）	180分
5	精神障害の作業療法の概要について①	講義、ディスカッション	予習（精神障害の作業療法について自習する）	180分
6	精神障害の作業療法の概要について②	講義、ディスカッション	予習（精神障害の作業療法について自習する）	180分
7	精神障害の作業療法の治療構造について①	講義、ディスカッション	予習（精神障害の作業療法の治療構造について自習する）	180分
8	精神障害の作業療法の治療構造について②	講義、ディスカッション、演習	予習（精神障害の作業療法の治療構造について自習する）	180分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			20				20	40
	思考・推論・創造の力			20				10	30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			20				10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生活と作業	講義、演習	講義について復習する	180
2	生活と作業の違い	講義、演習	講義について復習する	180
3	クライアント中心の実践	講義、演習	講義について復習する	180
4	作業分析① カナダモデルと人間作業モデル	講義、演習	講義について復習する	180
5	作業分析② AMPS	講義、演習	講義について復習する	180
6	作業分析③ MTDLP	講義、演習	講義について復習する	180
7	作業分析④ CI療法	講義、演習	講義について復習する	180
8	事例報告と事例研究	講義	講義について復習する	180

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	神経系の基礎知識 脳の構造や機能、脳内ネットワークについて	講義	脳の解剖学について関連書籍にて予習しておくこと 講義内容について復習	90 90
2	脳の可塑性 ステージ理論と治療法	講義	予習：前回の講義内容について確認 復習：講義内容について復習	90 90
3	CVAに対する代表的治療法 ミラーセラピー 頸頭蓋磁気刺激 装具療法	講義 実技	予習：ステージ理論について 復習：講義内容について復習	90 90
4	脳卒中者に対する早期リハビリテーションのエビデンス リスク管理	講義 実技	予習：脳卒中者に対するリスク管理について 復習：講義内容について復習	90 90
5	脳卒中者に対する治療技法 痛み（HSP&CRPS）に対する治療	講義 実技	予習：脳卒中片麻痺者に対する痛みの治療を調べる 復習：講義内容について	90 90
6	脳科学に基づくリハビリテーション戦略 半側空間無視などの症例を通して戦略を考える	講義 実技	予習：半側空間無視についてまとめておくこと 復習：講義内容について復習	90 90
7	Dysphagia and Aspiration Following Stroke	講義 実技	予習：関連領域で学んだ知識の整理 復習：講義内容について復習	90 90
8	総括 講義全体のまとめと、脳卒中リハビリテーションの今後について —近年の知見も踏まえて—	講義	予習：これまでの講義内容について整理 課題に対して、レポートにまとめる	90

【科目名】 動作測定技法Ⅰ		【担当教員】 木村 和樹
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dm127	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 月曜日12時40分～13時30分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この授業はWEB授業対応授業です（Office365の設定が必要です）。 ・演習に関しては対面で行いますが、WEBで受講される場合はMicrosoft Teamsを使用し演習で計測したデータの配布を行います。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題レポートの解答例を授業内で説明します。 ・提出された課題レポートは受講者全員または個人にコメントをするため、課題は必ず期限内に出すようにしてください。		
【講義概要】 (目的) この講座では、動作分析で用いる加速度、重心動揺、静止画などから身体の動きを分析する手法を学びます。また測定の基本原則について解説していきます。身体の動きを数値化されたデータにして研究に応用します。 当該授業科目と学位授与方針等との関連性：高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う。		
(方法) 実際に計測を行い、データを分析する。 自身で測定したデータを分析して発表を行う。 学生の理解度確認等のために、クリッカー等を使用する。 レポートに関しては、作成後に添削を行い随時、フィードバックを行う。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・動作分析の基本的原理を理解する。 ・加速度、重心動揺、スパイロメータなどの測定手技について理解する。		
【行動目標 (SB0)】 ・動作分析の基本的原理を説明できる。 ・加速度、足底圧、重心動揺の測定が行える。 ・画像から姿勢を分析することができる。 ・呼気ガス分析装置の測定が行える。		
【教科書・リザーブドブック】 ・必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・必要に応じ資料を配布する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート50%、発表30%、授業に取り組む姿勢20%(宿題・ノートの整理状況など)とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50			50		100
評価 指標	取り込む力・知識			30			30		60
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20			20		40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション ・動作分析の基礎的理解	(講義・演習) ・授業の進め方を説明する。	・筋電図について調べておく。	180分
2	・加速度計を用いた測定	(講義・演習)	・加速度計の測定方法について調べておく。	180分
3・4	・足底圧、重心動揺計を用いた測定	(講義・演習)	・重心動揺の測定方法について調べておく。	180分
5・6	・静止画からの姿勢分析	(講義・演習)	・image-Jについて調べておく。 ・課題作成	180分
7・8	・呼吸機能の分析	(講義・演習)	・呼気ガス分析装置、スパイロメータについて調べる。 ・課題提出	180分

【科目名】 動作測定技法Ⅱ		【担当教員】 星野 浩通、若菜 翔哉、金子 巧
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 m207	(メールアドレス) hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 木10:00-17:00
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は基本的には対面で行いますが、状況に応じてweb (TeamsあるいはZoom) で行います。 また、実際に機器を使用して行うコマもあるため、その際の機器使用には一定の配慮 (取扱注意) が必要です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>講義だけのコマはなく、基本的には講義+ディスカッション構成と考えてください。多くのディスカッションを通して双方向的な意見交換を求めます。 本科目では生成AIの活用を推奨します。ただし、①使用した場合には出典先 (情報元) を明記すること②利用情報と非利用情報を区別することを条件とします。あくまで自身の思考や独創性などを養う目的で課題設定している点を十分に考慮し、参考程度の利用にとどめることを推奨します。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>本講義で取り扱う内容は①超音波エコー②筋電図③動作解析装置④重心動揺計です。これらの測定方法から原理、得られる情報を学びます。 また、測定方法だけでなく得られた情報をさらに思考発展できるよう、関連文献を読み、理解します。</p> <p>(方法)</p> <p>当日配布する資料を確認しながら進めていきます。資料は科目Teamあるいはメールにて事前あるいは当日に配布します。また、講義スケジュールにあるように院生からの文献抄読がありますが、和文・英文は問いません。可能であれば英語にチャレンジすることを推奨しますが、任意としますし、それによる成績への影響はありません。 なお、対面講義を基本としていますが状況に応じてweb (TeamsあるいはZoom) にて行う場合もあります。 最終課題であるレポートは提出後コメントを付して返却します。</p>		
<p>【一般教育目標 (GIO)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 超音波エコーの原理を理解する。超音波エコーの基本的な測定方法を理解する。 2. 筋電図の原理を理解する。筋電図の基本的な測定方法を理解する。 3. 動作解析装置の原理を理解する。動作解析装置の操作方法を理解する。 4. 重心動揺計の原理を理解する。重心動揺計の操作方法を理解する。 <p>【行動目標 (SB0)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 超音波エコーを用いて対象となる組織の同定ができる。 2. 筋電図を用いて、対象となる骨格筋の筋活動を測定することができる。 3. 動作解析装置・重心動揺計を用いて、対象の力学的項目を測定することができる。 3. 得られたデータを分析できる。 		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>必要に応じて資料を配布します。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>必要に応じて資料を配布します。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 ・学位授与の方針と当該授業科目の関連：2「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う」 ・成績評価の内訳は下記の通りです。 レポート：90点分、実技：10点分。 レポート：科目内容を含んだレポート課題を最終コマに発表します。実技：講義中の使用機器に対する態度を評価します。 		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90		10			100
評価 指標	取り込む力・知識			30		5			35
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10		5			15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	1) 科目オリエンテーション 2) 超音波エコーの原理とわかること 3) 超音波エコー使用 (概要)	対面あるいはweb 講義, ディスカッション	超音波エコー測定により得られる情報を可能な範囲で事前確認しておく.	180分
2	1) 超音波エコー使用 (筋評価) 2) 超音波エコー使用 (靱帯評価) 3) 超音波エコー使用 (神経評価) 4) 超音波エコーから得られるデータの分析	対面あるいはweb 講義, ディスカッション	超音波エコー測定により得られるデータ (エコー画像) を読み取れるようにする.	180分
3	1) 筋電図の原理とわかること 2) 筋電図使用 (概要)	対面あるいはweb 講義, ディスカッション	筋電図測定により得られる情報を可能な範囲で事前確認しておく.	180分
4	1) 筋電図使用 2) 筋電図から得られるデータの分析	対面あるいはweb 講義, ディスカッション	筋電図測定により得られる情報を可能な範囲で事前確認しておく.	180分
5	1) 動作解析装置の原理 2) 動作解析装置の使用手法	対面あるいはweb 講義, ディスカッション	動作解析装置により得られる情報を可能な範囲で事前確認しておく.	180分
6	1) 動作解析装置使用、実習 2) 動作解析装置からデータ出力	対面あるいはweb 講義, ディスカッション	動作解析装置により得られる情報を可能な範囲で事前確認しておく...	180分
7	1) 重心動揺計の原理 2) 重心動揺計の使用手法	対面あるいはweb 講義, ディスカッション	重心動揺計により得られる情報を可能な範囲で事前確認しておく...	180分
8	1) 重心動揺計使用と実習 2) 重心動揺計からのデータ出力	対面あるいはweb 講義, ディスカッション	重心動揺計により得られる情報を可能な範囲で事前確認しておく...	180分

【科目名】		徒手医学特論		【担当教員】	高橋 洋
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	m128	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hiroshit@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 来校時に対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
実技を行うときは、動きやすい服装を準備すること					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、予習復習、レポート作成において自由に利用してください。使用した場合その旨をレポートに記載してください。					
【講義概要】					
(目的)					
痛みの評価、痛みの治療に関する基本理念と治療法、慢性疼痛に対する理学療法効果、組織の修復、筋硬結について説明する。筋・筋膜摩擦伸長法の理論背景を説明し、実技の基本を実習する。					
(方法)					
配布資料を使用してスライドにて講義を行います。来校時に実技とスライドによる講義を行います。レポートにコメントを付して返却します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
痛みと筋・筋膜摩擦伸長法の理論を理解し、実技の基本を習得する。					
【行動目標 (SB0)】					
痛みについて基本的知識、評価法を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
資料を配布する					
【参考書】					
小林紘二 著「筋性疼痛症候群の臨床観察（上下巻）」MT-MSP勉強会					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
レポート80%、実技20%で評価する					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80		20			100
評価指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 疼痛学	講義	生理学の復習	180分
2	自律神経と痛み 痛みの心理・環境・行動的側面	講義	生理学の復習	180分
3	ブラシーボ効果、痛みの評価	講義	1, 2 コマの講義内容の復習 生理学の予習	180分
4	痛みの治療における基本理念 徒手療法 慢性痛に対する理学療法効果	講義	物理療法の復習	180分
5	組織修復過程 筋・筋膜に対する徒手療法	講義	3, 4 コマの講義内容の復習 解剖、生理学の予習	180分
6	IDストレッチング 実技	講義 実技	5 コマの講義内容の復習 実技の復習	180分
7	Q&Aコーナー 実技	講義 実技	6 コマの講義内容の復習 実技の復習	180分
8	実技	講義 実技	7, 8 コマの講義内容の復習 実技の復習	180分

【科目名】生活支援デバイス論（補装具など）		【担当教員】丁子 雄希
【授業区分】専門科目	【授業コード】dm129	(メールアドレス) tyouji@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【開講時期】後期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 毎回の授業後において課題がでます。次回の授業開始時まで提出してください。 障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 課題は、他に支障のない限り返却します。 本授業において生成AIの使用は原則禁止します。しかし、課題を理解するにあたり、翻訳が必要な場合のみ許可とします（例：中国語↔日本語）。		
【講義概要】 (目的) デバイスや補装具を用いた種々の環境支援方法について学びを深め、生活支援との関係を理解する。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。 (方法) オンデマンド配信となります。 レポートは返却しませんが、希望があれば返却します。 必要に応じて、授業時にフィードバックを行います。		
【一般教育目標 (GIO)】 QOL向上のための、生活環境設備や福祉用具の活用方法を習得する。 		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			20				20	40
	思考・推論・創造の力			20				10	30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			20				10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生活支援と環境支援 (食事を中心に)	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
2	脊髄損傷とデバイス	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
3	車椅子による環境支援① (概要)	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
4	車椅子による環境支援② (事例検討を通して)	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
5	スプリント・義手による環境支援	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
6	脳卒中に対する環境支援	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
7	運転支援とデバイス	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
8	目標設定とデバイス	講義	講義内容について、予習・復習	180

【科目名】 運動発達障害特論		【担当教員】 押木 利英子
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmh 130	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	oshiki@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 月、木 11:00 ~ 16:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 基本的な正常運動発達について理解している、または興味・関心があることが望ましい。 ＊この科目は小児医療センター等で臨床経験を積んだ実務家教員が担当します。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 事前に正常運動発達、運動発達障害に関する知識の整理、及び文献を調べておくことが望ましい。受講者の背景に合わせて、レポートの添削を行う。個人の希望や必要に応じて解説する。【課題】 毎回（1～7回）授業の後半に簡単な課題を出す。この課題に対してレポートを作成し、発表し提出する。【試験】 筆記試験は行わない。最終回後に事例検討レポートを課し、これと毎回提出のレポートとの総合点を試験結果とする。		
【講義概要】 (目的) 運動発達障害の概念や発生機序を理解するとともに、運動障害児の治療効果検証について理解することを目的にする。また、発達理論や研究法の学習を通して最新の知見を学び、PT、OT、STの視点から小児リハビリテーションあり方について学ぶ。		
(方法) 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 毎回、講義内容に関連するレポート作成を課します。 最終試験は、授業全体を通しての課題レポート作成とします。		
【一般教育目標 (GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・運動発達障害の機序について理解する。 ・運動発達と知覚・認知・行動発達の関係性について理解する。 ・運動発達障害に対する最新の知見を習得する。 		
【行動目標 (SB0)】 <ul style="list-style-type: none"> ・小児リハビリテーションのフィールドにおいて、運動発達の重要性と具体的な提言が出来る。 		
【教科書・リザーブドブック】 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし（講義中に随時紹介する） 		
【参考書】 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし（講義中に随時紹介する） 		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) <ul style="list-style-type: none"> ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・毎回の授業後課題70%、事例検討レポート30%の提出状況、内容を評価し、単位授与とする。 		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80	20				100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	運動発達とは何かその視点 運動発達の機序について概説する	講義	正常運動発達について理解する	180分
2	運動発達の特徴と原理 “動くこと” “動けること” (発達の原点) の意 味を考える	講義	発達指標について理解する	180分
3	運動発達障害特論 (1) 運動発達と脳の可塑性について ～その可能性と障害～	講義	運動発達の多様性について理解する	180分
4	運動発達障害特論 (2) 運動発達の阻害因子の見方と小児理学療法の治療 体系	講義	事例を通して小児理学療法の治療体 系について理解する。	180分
5	運動発達評価と発達原理 発達検査と評価の方法、 運動学習システムと発達理論	講義	子どものハビリテーションについて 考える。	180分
6	私の臨床研究論と紹介 運動発達障害研究に対する私論と今までやってき た研究の紹介と解説	講義	自分自身の研究の意義を考える	180分
7	臨床活動における連携協働の重要性 小児臨床における連携教育 (I P E) と連携協働 (I P W) の重要性について ～その歴史と現状～	講義	あなたの I P E, I P Wを振り返る	180分
8	事例検討 まとめ	事例検討 (モ ジュールを使用 して) レポート作成	提示された事例について検討する。	180分

【科目名】 心の健康科学総論(心の健康教育に関する理論と実践)		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmHs 131	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	gskanri2020@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 出講時及び随時メールにて応じます
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、心の健康科学コースの必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学院での心の健康科学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害や精神機能障害へのリハビリテーション)から、「心の健康教育に関する理論と実践」について講じていきます。 「心の健康」は、保健医療、福祉、教育、産業・労働、そして司法・犯罪の全ての領域において重要な課題です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 欠席する場合は事前に連絡してください。その場合、資料は後日配布し、必要があれば振替講義を検討します。 積極的態度で受講し、関心あるテーマは自身で情報収集して問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。 授業中に実施した心理テスト等のデータは各自で確認し、提出を求めません。生成系 AI の利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用してください。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記してください。		
【講義概要】 (目的) 多様な価値観、高度に複雑化した競争社会の中で、緩むことのない心の緊張が「心の病」を生み出し、さまざまな疾患を発症させています。本科目では、ストレスのメカニズムとその対処法(ストレス・マネジメント)について、基本的な知識を講じていきます。将来、「心の健康」に関する知識の普及をも図ることができるよう、その支援/教育法にも触れていきます。 【当該科目と学位授与方針との関連性】 「専門領域に関する多様な課題を発見・分析し、自ら解決する能力を培う。」 (方法) 配布資料に基づき、Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。参考資料や関連法規等は、授業中に紹介します。講義内容に関連した調査や心理テストを実施します。その場合、目的や結果の意味するところは解説しますが、各人の結果データの提出は求めません。 課題レポートについては、評価基準を講義内で説明します。 また、講義内容に関連したテーマについてグループ討論をした場合は、グループ発表を実施します。		
【一般教育目標(GIO)】 「健康とは何か？」を国際的定義から説明できる。 ストレスが脳、身体、心、認知や行動へ及ぼす影響、そして疾患との関係を科学的根拠に基づいて説明できる。 日常生活や社会生活全般において、「心の健康」が良好な人間関係の構築に必須であること、そして各人の幸福感、延いては健全な社会の発展に繋がることを理解する。		
【行動目標(SBO)】 ‘いじめ’や自殺は現代の大きな社会問題です。その根底に潜むストレスを心理・社会的側面と神経生理的側面からも正しく理解し、適切な心の支援へと繋ぐことができる。 心の健康の維持増進のために、あるいはそれが損なわれたケースに対して、適切な心理学的支援ができる。 ライフサイクルにおける各年代、社会的役割等におけるストレス要因を知り、適切な健康管理ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず、必要な資料(関連法規を含む)は配布する。 講義内容に関連し、厚生労働省が発信している「心の健康」に関するサイトは随時、紹介していく。		
【参考書】 ラザルス&フォークマン著・本明寛他訳／ストレスの心理学／実務教育出版／1991年／5,872円 厚生労働省「健康日本21(第二次)」内、「こころの健康」を参照のこと。 Newton 別冊ムック「脳と心：脳の最新科学,そして心との関係」(株)ニュートンプレス(2010/11/15) ¥2,415(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 授業への能動的/積極的な受講態度及び参加30%、レポート課題70%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。 成績評価基準は本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程及びその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 *障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70	10		20		100
評価 指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	健康心理学とは？ ・「健康」の定義 【演習】精神健康調査票（GHQ 28） ストレスとは？ ・ストレスとストレス反応	講義	【予習】WHOのQOLの定義から「心の健康」を理解しておく。【復習】精神健康調査票（GHQ 28）の結果を考察し、「心の健康」の構成要因を再確認する。	60分 120分
2	ストレスに対する心理的反応 ・不安 【演習】顕在性不安尺度(MAS) ・怒りと攻撃性 ・アパシーと抑うつ感	講義 実技	【予習】ストレスと心理的反応の関係を確認しておく。 【復習】顕在性不安尺度(MAS)の結果を考察する。	60分 120分
3	ストレスに対する生理的反応（身体への影響） ・闘争・逃走反応 ・汎適応症候群 ・タイプA行動とその修正支援	講義	【予習】ストレスと生理的反応の関係を確認しておく。 【復習】タイプA行動チェックの結果を考察する。	60分 120分
4	PTSD ・PTSDの定義 【演習】PTSD Checklist (PCL) ・PTSDの発症要因 ・発症メカニズム ・自然災害とPTSD ・心理学的支援法	講義 実技	【予習】ASD及びPTSDの定義を確認しておく。 【復習】PTSDチェック項目から、その発症要因を把握する。	60分 120分
5	ストレスによる健康への影響 ・ライフサイクルとストレス ストレス関連疾患 ・パニック障害 ・うつ 【演習】BDI/SDS ・依存症（薬物、アルコール等）	講義 実技	【予習】20～30代の「働き方」をワークライフバランスの観点から検討する。 【復習】BDI/SDSの結果から「うつ症状」を考察する。	60分 120分
6	ストレス理論 ストレス耐性 ・精神分析理論 ・行動理論 ・認知理論 ・ハーディネス ・楽観主義 ・意味を見出す	講義 討議（グループディスカッション）	【予習】各学派の理論、基本的な考え方を確認しておく。【復習】身近なストレス事例を想定し、各学派の考え方から検討し、具体的な心の支援の実践法を考案する。	60分 120分
7	ストレスコーピング 自殺予防 ・行動療法・運動療法・認知行動療法 ・自己コントロール/心理的サポート ・リスク要因と適切な予防法	講義 討議（グループディスカッション）	【予習】各学派の理論、基本的な考え方を確認しておく。【復習】身近なストレス事例を想定し、各学派の考え方から検討し、具体的な心の支援の実践法を考案する。	60分 120分
8	「孤独・孤立対策推進法」の概説 「心の健康づくり」の支援 事例検討：家庭/学校/職場でのストレス要因と児童虐待/いじめ/高齢者虐待の実態【演習】WHO SUBI: The Subjective Well-being Inventory	講義 討議：事例検討 発表	【予習】”いじめ”の原因・要因を推察し、列挙する。【復習】以上を踏まえ、多角的に「心の健康づくり」を提言する。SUBIの結果を考察し、Well-beingの概念を理解する。	60分 120分

【科目名】		アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学		【担当教員】		山倉 辰裕	
【授業区分】		専門科目		【授業コード】		dbmh134	
【開講時期】		後期		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		8コマ	
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
学部で学んだ「発達心理学」「臨床心理学」の知識を振り返っておくと、授業の内容が理解しやすくなるだろう。大学院科目であるという特性上、受講生に対しては積極的に質問を投げかける。そこから議論の発展につなげていきたい。したがって、受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことを期待する。							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
・毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却：他に支障がない限り解説を行います。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。							
【講義概要】							
(目的)							
乳幼児期から老年期にかけての諸側面の発達がアイデンティティ形成にどのように関わっているのかを解説する。							
(方法)							
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。							
【一般教育目標 (GIO)】							
各発達段階におけるアイデンティティが形成されるプロセスについて、エリクソンの漸成的発達理論を基に考察することができる。							
【行動目標 (SB0)】							
アイデンティティが形成されるプロセスについて、エリクソンの漸成的発達理論を基に説明することができる。							
【教科書・リザーブドブック】							
授業資料を毎回配布します。							
【参考書】							
服部祥子「障害人間発達論」（医学書院）ISBN978-4-260-04133-1 E. H. エリクソン「自我同一性：アイデンティティとライフ・サイクル」（誠信書房） ISBNコード ISBN978-4-414-40246-9							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
・最終レポートと授業内での小レポートから総合的に評価する。 ・小レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・授業への参加態度も評価に含みます。							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	30			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・エリクソンの心理的社会的発達論とアイデンティティ形成 ・乳幼児期の「身体」、「運動機能」の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
2	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅰ 乳児期 ・言語発達、コミュニケーションとアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
3	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅱ 幼児初期 ・情緒（感情）の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
4	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅲ 遊戯期 [幼児期後期] ・乳幼児期の「遊び」の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
5	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅳ 学童期 ・社会性の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
6	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅴ 思春期・ 青年期（1） ・「記憶」「知覚」の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
7	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅴ 思春期・ 青年期（2） ・向社会性と道德性の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
8	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅵ～Ⅷ成人 前期～成人後期 ・「自己」の発達について	講義	講義プリントの復習	180分

【科目名】 キャリア形成とリハビリテーション心理学(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmH 135	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	gskanri2020@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 出講時及び随時メールにて応じます
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>※本科目は、心の健康科学コースの必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学及び大学院でのキャリア支援教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害や精神機能障害者への就労支援）から、「産業・労働分野に関する理論と支援」について講じていきます。 健全なキャリア形成は、保健医療、福祉、教育、産業・労働、司法・犯罪の全ての領域において重要な課題です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>欠席する場合は事前に連絡してください。その場合、資料は後日配布し、必要があれば振替講義を検討します。 積極的態度で受講し、関心あるテーマは自身で情報収集して問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。 授業中に実施した心理テスト等のデータは各自で確認し、提出を求めません。生成系 AI の利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記してください。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>人は生涯にわたり、社会生活や家庭生活での経験や役割を積み重ねていく中で各人のキャリアを形成していきます。中でも、働くことは生きがい、主観的幸福感に大きく関わっています。本講義を通じて、1)ライフサイクルの各段階でのキャリア形成の特徴と課題を学び、2)キャリア形成に伴う種々のストレス要因が関連している心身の疾患や社会の実態や問題を考察し、3)労働者のワーク・ライフ・バランスを保ち、メンタルヘルスを維持していくための知識・スキルを習得することを目的とします。【当該科目と学位授与方針との関連性】「専門領域に関する多様な課題を発見・分析し、自ら解決する能力を培う。」</p> <p>(方法)</p> <p>毎回、講義内容に関連する資料を配布し、Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 各テーマに関連した事例検討を実施し、グループまたは各自で分析・考察した後、発表を実施します。 心理テストも随時実施します。その場合、目的、実施法等は説明しますが、個人データの提出は求めません。 課題レポートについては、評価基準を講義内で説明します。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>人生の各段階に応じて、多様な価値観に基づく生き方を各人が主体的に選択し実現できることを理解する。 ハラスメント等の職場でのストレス要因を理解し、その予防のための適切な心理的支援法を修得する。 ワークライフバランスの実現を目的とする関連法規の内容を理解する。 長期休業後の労働者のリワーク支援や障害者の就労支援を制度面と”心のケア”面から学ぶ。</p>		
<p>【行動目標(SBO)】</p> <p>自身の働き方を熟考するとともに、教育・保健医療・福祉・産業等の現場で心理職の専門家として対象者に適切な就労支援ができる。 「職場における心の健康づくり～労働者の心の健康の保持増進のための指針～」を理解し、適切な支援ができる。 「治療と仕事の両立の支援」の趣旨を理解し、働く場でのこころの健康増進を支援できる。 キャリア支援を通して（「孤独・孤立対策推進法」に基づく）孤独・孤立の予防支援ができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず。資料は配布します。 関連法規等はその都度説明いたします。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>内閣府「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」「孤独・孤立対策推進法」 厚生労働省「こころの健康 健康日本21（第二次）」「職場における心の健康づくり」「治療と仕事の両立の支援」「仕事と生活の調和の実現に向けた取組の推進」等、関連する各種施策を参照のこと。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>授業への能動的/積極的な受講態度及び参加30%、レポート課題70%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。 成績評価基準は本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程及びその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 ＊障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70	10		20		100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	キャリアとは何か？ ・自己概念の確立とキャリア形成 ・キャリア教育 ・離学者への就労支援 ・地域若者サポートステーションの役割	講義 実技：“キャリア アレインボー” の作成 発表	【予習】アイデンティティとは何か (定義)を確認しておく。【復習】 アイデンティティ形成に果たす職業 アイデンティティの役割を理解す る。	90分 90分
2	初期キャリアの形成と危機 ・新社会人のストレス ・ダイバーシティ・多様な価値観 ・男女雇用機会均等法・女性の社会進出	講義 討議(ディス カッション)	【予習】自身の就活での不安や問題 点を具体的に列挙しておく。【復 習】男女が共に協力し合い、個人 を社会全体で支えることが社会の発 展に繋がることを理解する。	90分 90分
3	家庭生活と仕事・職場におけるメンタルヘルス ・M字型カーブとは ・ライフコースとワーク・ライフ・バランス ・「産休/育休制度」の変遷 ・子育てとワーク・ライフ・バランス	講義 実技：ストレス チェックの実施 討議(ディス カッション)	【予習】この先の自身のキャリア形 成と日常生活のバランスを展望す る。【復習】次世代の育成を仕事と 両立する上での問題点を列挙し、そ れを解決する方策を提案する。	90分 90分
4	働く環境の問題 ・ストレスチェック制度 ・安全・快適な職場環境づくり ・労働安全衛生法 ・ハラスメント	講義 討議(事例検討: ディスカッショ ン)	【予習】「働き方」に関する最近の ニュースの中で、特に関心を抱いた テーマをまとめておく。【復習】職 場の物的・人的環境が人の心身に及 ぼす影響について考察する。	90分 90分
5	キャリア“停滞”への対応 ・パニック障害/うつ/過労死 ・職場復帰(リワーク)支援 ・治療と仕事の両立支援 ・労災/障害年金制度	講義 討議(事例検討: ディスカッショ ン)	【予習】「ストレス反応」をこれま で学んだ知識で確認しておく。【復 習】「労災」の定義(基準)から労 働環境と疾患発症の関係を理解す る。関連法規及び支援法を確認す る。	90分 90分
6	職業・社会生活の変化 ・心身及び生活の変化と中年期危機 ・退職とアイデンティティの危機	講義 討議(ディス カッション)	【予習】「中年期危機」の要因を生 物学的、社会的、心理的各側面から 検討する。【復習】職業アイデン ティティが各人の人格形成/幸福感に 及ぼす影響を考察する。	90分 90分
7	障害者への就労支援 ・障害の概説と就労支援のポイント ・障害者雇用促進法 ・合理的配慮 ・社会的バリアの除去/心のバリアフリー	講義 討議(ディス カッション)	【予習】多様な価値観を受け容れ、 共に生きる社会の実現するにはどう すればよいのかを考えておく。【復 習】地域共生社会の実現に向けて 「心のバリアフリー」を理解する。	90分 90分
8	まとめ ・キャリア形成と心の健康 ・働き方改革 ・事例検討	講義	【予習】「働き方改革」の概要を把 握しておく。【復習】「レポート課 題(事例検討)」を通して、関連法 規を再確認し、支援法を検討する。	60分 120分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	超高齢社会	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	高齢者医療	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	支援者の専門技能	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	高齢者支援	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	認知症	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	精神疾患	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	高齢者虐待・介護者支援	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	喪失・幸福	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【科目名】精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）		【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh136
		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期		
【単位数】	1	【コマ数】	8
		(オフィスアワー) メールにて対応	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
医療現場における心理学の要素を生かした実際の治療についてより深く学びます。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
守秘義務についての契約書の記入を求めます。受講者の目的（臨床イメージ）を明確に持って下さい。			
生成AIの利用は不可とします。			
【講義概要】			
(目的)			
どのようにして個の機能の回復と共に精神機能の回復を促すべきかを学びます。			
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
(方法)			
自分自身との対話が必要となるため、精神的な問題を抱える方は注意が必要です。			
レポートにコメントを付して返却します。			
【一般教育目標 (GIO)】			
医療現場における心理学的アプローチの方法を理解すること。			
【行動目標 (SB0)】			
自らの欠点を理解し、技術を向上すること。			
【教科書・リザーブドブック】			
公認心理師必携テキスト[学研プラス]			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。			
レポート100%。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションの真の目的を理解する まず自分を知ること。その上で他者へのアプローチの仕方を知る	講義	事前に配布する資料に解答しておくこと	180
2	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションの介入時期について 介入する時期の違いによりアプローチの違い	講義	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
3	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションにおける職種の違いの理解と応用	講義	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
4	心理リハビリの実践1 (事例1)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
5	心理リハビリの実践2 (事例2)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
6	心理リハビリの実践3 (事例3)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
7	心理リハビリの実践4 (事例4)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
8	総論	自ら選んだ事例に対してケースレポートをまとめてもらいます	事例を選んでおくこと	180

【科目名】精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）		【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh137
		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期		
【単位数】	1	【コマ数】	8
		(オフィスアワー)メールにて対応する	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）を受講している方が望ましい。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
守秘義務についての誓約書を求めます。			
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
生成AIの利用は不可とします。			
【講義概要】			
(目的)			
心理リハビリの国際的理解を深める。			
学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
(方法)			
リハビリテーション心理学における国際的視点を身に付け、広いフィールドワークで活躍できる能力を培えるように。			
試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。			
【一般教育目標(GIO)】			
異文化に対する理解を深め、国際的に活躍できる能力を身につける。			
【行動目標(SB0)】			
様々な障壁を乗り越えて行動する力を持つ。			
【教科書・リザーブドブック】			
リハビリテーション心理学入門〔荘道社〕			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。			
レポート100%。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	国際的リハビリテーション心理 (アジア) 中国、台湾	講義	配布資料に目を通す	180
2	国際的リハビリテーション心理 (アジア) 韓国	講義	配布資料に目を通す	180
3	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) フランス	講義	配布資料に目を通す	180
4	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) スイス	講義	配布資料に目を通す	180
5	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) イギリス	講義	配布資料に目を通す	180
6	国際的リハビリテーション心理 (アメリカ他) アメリカ、カナダ	講義	配布資料に目を通す	180
7	国際的リハビリテーション心理におけるジェン ダーの問題 国際社会におけるジェンダーや様々な壁について	講義	配布資料に目を通す	180
8	総論 レポートをまとめ、評価を行う。	講義	レポートをまとめること	180

【科目名】		疾病と障害の共存とリハビリテーション心理学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmH138	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験を基に保健医療領域において心理職に求められる役割や知識および技術について学ぶ。 本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、産業カウンセラーまたは公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・ 毎回講義動画を配信します。事例検討など学生の皆さんが主体となって展開される授業ですので積極的な参加を求めます。 ・ 生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。					
【講義概要】					
(目的)					
保健医療領域において求められる心理職の役割、知識および技術について学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
授業中に実施した課題についてはTeams内で講評の形式でフィードバックする。					
【一般教育目標 (GIO)】					
保健医療領域における心理職の支援のあり方および他職種との連携について理解できる。					
【行動目標 (SB0)】					
保健医療領域における心理職の役割について説明できる。 保健医療領域において支援を実践する上で必要な知識や技術について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
授業中の配付資料					
【参考書】					
野島 和彦（監）／公認心理師分野別テキスト①保健医療分野 理論と支援の展開／創元社／2019年／2,400円＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 授業中課題（レポート）、最終課題を通じて総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			40	60					100
評価 指標	取り込む力・知識		20	30					50
	思考・推論・創造の力		20	30					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・ガイダンス ・公認心理師法について 公認心理師の業務、信用失墜行為の禁止、秘密保持義務等	講義	公認心理師法について調べてみる	220
2	・保健医療分野におけるチーム医療の実践（１） 精神科、心療内科領域	講義・討論	講義プリントの復習 精神科や心療内科においてどのような職種がどのような役割で患者支援に携わっているのか理解する。	220
3	・保健医療分野におけるチーム医療の実践（２） 内科領域	講義・討論	講義プリントの復習 内科においてどのような職種がどのような役割で患者支援に携わっているのか理解する。	220
4	・保健医療分野における心理アセスメント パーソナリティ特性、抑うつ、不安の評価	講義・討論	講義プリントの復習 患者理解および支援のツールとしての心理検査について理解する。	220
5	・保健医療分野の事例検討（１） 発達段階の理解と子育て支援	講義・討論	講義プリントの復習 乳幼児支援における心理職の役割について事例検討を通して理解する。	220
6	・保健医療分野の事例検討（２） うつ病の理解と支援	講義・討論	講義プリントの復習 発達障害の病態および病態に合わせた支援のあり方について事例検討を通して理解する。	220
7	・保健医療分野の事例検討（３） 生活習慣病の理解と支援 主に糖尿病患者への支援	講義・討論	講義プリントの復習 糖尿病の病態および糖尿病患者特有の心理について学び、支援のあり方を理解する。	220
8	・保健医療分野の事例検討（４） 生活習慣病の理解と支援 主に肥満者への支援	講義・討論	講義プリントの復習 肥満の病態および肥満者特有の心理について学び、支援のあり方を理解する。	220

【科目名】心理アセスメント特論(心理的アセスメントに関する理論と実践)		【担当教員】大矢 薫	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmH210	(メールアドレス) ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【開講時期】前期	【選択必修】必修		
【単位数】2	【コマ数】15	(オフィスアワー)12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 本講義では、毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。			
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～③を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義 ②心理的アセスメントに関する理論と方法 ③上記2つの心理に関する相談、助言、指導等への応用 当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」 (方法) 毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行う。 レポートに対するフィードバックは個別に対応するので、担当教員へ連絡すること。			
【一般教育目標 (GIO)】 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解する。 心理的アセスメントに関する理論と方法を理解する。 			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	公認心理師の実践における心理的アセスメントの 意義	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査①	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査②	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査③	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査④	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査⑤	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査⑥	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法①	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240

9	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法②	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
10	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法③	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
11	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法④	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
12	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法⑤	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
13	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法⑥	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
14	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法⑦	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
15	公認心理師の実践における心理的アセスメントの 意義、心理的アセスメントに関する理論と方法を 心理に関する相談、助言、指導等へ応用する	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【科目名】サイコセラピー特論(心理支援に関する理論と実践)		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmH211	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】2	【コマ数】15	(オフィスアワー)12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
本講義では、毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】		
(目的)		
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑤を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①力動論に基づく心理療法の理論と方法、②行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、 ③その他の心理療法の理論と方法、④①～③の心理に関する相談、助言、指導等への応用、 ⑤心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整 当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」		
(方法)		
毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行う。 レポートに対するフィードバックは個別に対応するので、担当教員へ連絡すること。		
【一般教育目標 (GIO)】		
力動論に基づく心理療法の理論と方法を理解する。 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法を理解する。 その他の心理療法の理論と方法を理解する。		
【行動目標 (SB0)】		
力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助言、指導等へ応用できる。 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整ができる。		
【教科書・リザーブドブック】		
毎回、プリントや資料を配布する。		
【参考書】		
池田暁史 『メンタライゼーションを学ぼう』 日本評論社 (2,200円＋税) 下山晴彦・神村栄一 『認知行動療法－実践手続きを具体的に知ることができる－』 NHK出版 (2,500円＋税) 原田隆之 『心理職のためのエビデンス・ベイスト・プラクティス入門』 金剛出版 (3,200円＋税)		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、レポート50％、授業内でのディスカッション・ディベート50％の割合で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助言、指導等へ応用する①	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	力動論に基づく心理療法の理論と方法①	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	力動論に基づく心理療法の理論と方法②	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	力動論に基づく心理療法の理論と方法③	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	力動論に基づく心理療法の理論と方法④	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法①	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法②	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240

9	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法③	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
10	力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・ 認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の 心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助 言、指導等へ応用する②	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
11	その他の心理療法の理論と方法① 箱庭療法	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
12	その他の心理療法の理論と方法② 遊戯療法（プレイセラピー）	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
13	その他の心理療法の理論と方法③ 動機づけ面接	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
14	その他の心理療法の理論と方法④ 集団療法（グループセラピー）	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
15	力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・ 認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の 心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助 言、指導等へ応用する③	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【科目名】		アートセラピー特論		【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh212	(メールアドレス) (オフィスアワー) メールにて対応	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 特に芸術的な能力や経験の有無は問いません。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 経験の有無を事前にお知らせください。 生成AIの利用は不可とします。					
【講義概要】 (目的) 1杯の茶を喫する癒しは世界共通の文化である。茶道はその人の「生」に深く結びつきながら芸術へと昇華される1面を持つ。茶道という枠を通して、人との距離、非言語的対話や癒す心などを学び、日常の診療に活用できるように指導する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う (方法) 試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。					
【一般教育目標 (GIO)】 芸術療法の根幹である非言語的コミュニケーションを理解し、心理的な介入技術の基礎を身につける。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				20				80	100
評価 指標	取り込む力・知識			20				80	100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	所作を聴く 茶道の基本的な動作を学びながら、5感を働かせる技術を学ぶ。	講義、グループワーク、実習	基本的な動作を繰り返し自習し、身につけること。 気づいたことを書き留めること。	180
2	結界を表象する 茶道を通して、空間のありかたについて学び、対人距離を学習する。	講義、グループワーク、実習	基本的な動作を繰り返し自習し、身につけること。 気づいたことを書き留めること。	180
3	心でもてなす 客を迎える心に触れ、自分を客観的に見つめる技術、相対する者への接し方を考える。	講義、グループワーク、実習	自分の在り方を顧みて、客観的にまとめてみる。	180
4	つかえる心 茶を点て、差し上げる喜びは、つかえる行為であり、自身の喜びにつなげる。	講義、グループワーク、実習	芸術療法を通じた医療行為とはどういうことかを考えてみる。	180
5	倦怠を癒す 息詰まった時の茶道での癒し方を学ぶ。	講義、グループワーク、実習	自分なりに日常に癒しを見立ててみる。	180
6	間合いを遅くする 話し言葉とは異なる間合いを知ることによって、自分と他者の心を調整する。	講義、グループワーク、実習	自分のリズムを振り返ってみる。	180
7	時を味方につける 1日の時の流れ、季節など移り行く時を取り入れて、場を作り出す心を学ぶ。	講義、グループワーク、実習	四季に目を向け、日常に取り入れてみる。	180
8	そなえる心 技術ばかりを追い求め、すぎることなく、行為そのものの主体性や心境に自由を見失わないために必要な心構えを学ぶ。	講義、グループワーク、実習	レポートの作成と提出。	180

【科目名】支援コミュニケーション特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】大矢 薫	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmH213	(メールアドレス) ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【開講時期】前期	【選択必修】必修		
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー)12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 本講義では、毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。			
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」 (方法) 毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行う。 レポートに対するフィードバックは個別に対応するので、担当教員へ連絡すること。			
【一般教育目標 (GIO)】 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を理解する。 【行動目標 (SB0)】 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】 毎回、プリントや資料を配布する。			
【参考書】 新田泰生 編 『産業・組織心理学』 遠見書房 (2,600円＋税) 加藤容子・三宅美樹 編 『産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 (2,200円＋税)			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、レポート50％、授業内でのディスカッション・ディベート50％の割合で評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 産業・労働分野における公認心理師の役割	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 リーダーシップ	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 労働安全衛生マネジメント	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 動機づけ理論	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 職場組織の人間関係	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 アセスメント	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 カウンセリング	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 コンサルテーション	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【科目名】 言語聴覚障害学総論		【担当教員】 大平 芳則
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmhS161	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 2	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 水曜12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は、言語聴覚障害に関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶための構成になっている。よって、言語聴覚士や言語聴覚障害に関する概要を理解するものとして、言語聴覚士国家試験受験予定者だけでなく、他のコースの方も受講できるものとなっている。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。		
【講義概要】 (目的) 言語聴覚士の職務内容や職業倫理、対象患者などの理解を深める。人間がコミュニケーションをとるための聴覚や発声・発語に関する生理学的側面、また記憶や思考といった高次脳機能に関する側面、さらにそれらの機能を障害することによる様々な言語障害に対する知識を包括的に学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。 (方法) スライドを中心に講義を行います。 ・レポートはコメントを付して返却します。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。		
【一般教育目標 (GIO)】 言語聴覚障がいに関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶ。また、特に言語聴覚士に関する、言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理などについても学ぶ。 【行動目標 (SB0)】 ・言語聴覚障害の種類、対象、原因、援助方法を説明できる。 ・言語聴覚士に関する言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理について説明できる。 ・言語聴覚士に必要な態度について理解を深める。		
【教科書・リザーブドブック】 なし。 資料を配付します。		
【参考書】 藤田郁代、北義子、阿部晶子『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論』 医学書院 2020年 ¥5,000 (税別) 小嶋智幸『図解 やさしくわかる言語聴覚障害』 ナツメ社 2015年 ¥2,000 (税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート100%とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 言語聴覚士、言語聴覚障害とは	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
2	言語とコミュニケーション	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
3	言語聴覚障害学の種類、対象、原因	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
4	聞こえの障害	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
5	話しことば speechの障害 1	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
6	話しことば speechの障害 2	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
7	話しことば speechの障害（嚥下障害含む） 3	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
8	言語languageの障害 1	映画鑑賞	授業内容の復習 レポート作成	180分

9	言語 languageの障害 2	映画鑑賞 感想文作成	授業内容の復習 レポート作成	180分
10	高次脳機能障害	講義	講義の復習 レポート作成	180分
11	言語聴覚療法に関する動画・映画鑑賞	講義	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役割について学習する	180分
12	言語聴覚療法に関する動画・映画鑑賞	講義	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役割について学習する	180分
13	言語聴覚士に関する職業倫理	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
14	言語聴覚士の歴史	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
15	言語聴覚士に関する法律	講義 レポート作成	授業内容の復習 レポート作成	180分